

## はじめに

学びの『つながり』を大切にして ～みんなちがって、みんないい～

新学習指導要領では、各教科の目標や内容の連続性・関連性を整理したこと、各段階間の円滑な接続を図るために新たな段階を設けるなど、つながりを整理し、系統性のある内容を設定したことなどが要点として示されました。本校では昨年度より、子どもたちの学ぶ内容の明確化とつながりのある指導計画の作成について整理・検討・実践・改善していく研究に取り組んでおります。

今年度2年目の研究実践は、年間を見通した学びのつながりを、聴覚障がい教育部と知的障がい教育部の目指す子どもの姿に照らし合わせながら、何度も話し合いを繰り返し、『つながり』を意識した授業づくりの研究を積み重ねて参りました。

学校研究『学びがつながる授業づくり』は、幼児児童生徒一人ひとりの「縦」の学びの成長と、学んだことを「活かす」「次につなげる」という「横」の学びの広がりを目指す実践となります。この実践は、本校の学校教育目標『学びを楽しみ、よりよく生きる人を育てる』と大きく関連し、開校当時から大切にしている『人とかかわりの中で自己有用感を高め、社会性のある子ども』の姿の具体化にもなると考えます。

みんなちがって、みんないいという金子みすゞの言葉で示される子どもの良さと個性を尊重しながら、子ども一人一人の確かな学びをどのように進めるか、学びを広げ、定着し、その学びを将来どのように活用するかを整理し、『つながり』のある学びの実践を次年度に向けて、さらに推進して参ります。

この度の「授業研究実践集」には、今年度の研究の足跡を収録いたしましたので、忌憚ない御意見や御指導、御助言をいただければ幸いです。

最後に、公開研究会で御助言をいただきました、荘司 秀明先生、県立楯岡特別支援学校寒河江校 土肥 修教頭先生、酒田市立富士見小学校 松田 貴祐教頭先生、県教育センター特別支援教育課 鎌水 佐知子先生に心より感謝申し上げます。

令和6年3月

山形県立酒田特別支援学校  
校長 五十嵐 仁